



競技の熱い開幕式

チビッ子ホッケー

関東選手権大会

小・中学とも優勝

第二回関東ブロックチビッ子アイスホッケー選手権大会が、二月十二・十三の二日間、古河リンク、細尾リンクで開かれました。

を成し遂げました。中学校の部は、強敵品川ジュニアアイスホッケークラブで快勝した日光中学校が、決勝戦でも中宮祠中学校を五―二で破り、初優勝を飾りました。

スポーツ

大会の結果

県外から参加したチームは、セントメリーインターナショナルスクール、品川ジュニアアイスホッケークラブ、シチズンジュニアクラブなどです。小学校の部は七チーム、中学校の部が五チームの計十二チームで熱戦が展開され、連日多くの観客を集めました。

◆第八回県下中学校アイスホッケー大会兼第十四回中禅寺クラブ杯中学校アイスホッケー大会

- ◆優勝 日光中学校
- ▼準優勝 中宮祠中学校
- ◆第九回古河金属所長杯青少年アイスホッケー大会
- 〔小学の部〕▼優勝 清滝小学校
- ▼準優勝 安良沢小学校
- 〔中学の部〕▼優勝 日光中学校
- ▼準優勝 東中学校
- 〔高校の部〕▼優勝 日光高校
- ▼準優勝 作新学院
- ◆第二回関東ブロックチビッ子アイスホッケー選手権大会
- 〔小学の部〕▼優勝 清滝小学校
- ▼準優勝 中宮祠小学校
- 〔中学の部〕▼優勝 日光中学校
- ▼準優勝 中宮祠中学校
- ◆第三十二回栃木県スピードスケート選手権大会
- 〔男子総合〕▼一位 阿久津真一
- 〔法大〕▼二位 斎藤修(法大)
- 〔女子総合〕▼一位 内海広子

市史編さん室だより

明治からのあゆみ

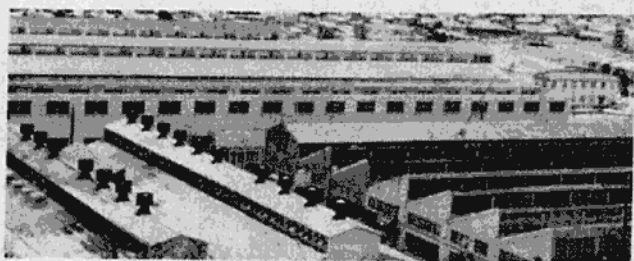
明治39年⇒40年

⑫ 日光電気精銅所開設(明治39年7月1日)
 明治37年9月、古河鋳業会社社長古河潤吉から、日光電気精銅所建設が認可されて、二年後の明治39年7月1日、約五千坪の敷地に開設された。同工場は、足尾銅山をはじめ各鉱山から産出する粗銅を、電気精銅したり、銅・真鍮・アルミニウム等の加工を目的とした。当初の精銅生産能力は、年間約一五〇〇トであったという。初代所長は山口喜三郎で、従業員は一六二名(所員三六名・工員一二六名)であったが、大正3年(第一次大戦時)には、八四一名に増え、第二次大戦中は学徒動員などを含めて、一万五千名以上が働いた。

⑬ 西沢金山探鉱株式会社設立(明治39年7月29日)

西沢金山は、明治30年から日光町の高橋源三郎が経営していたが、明治35年の天災以後は資金がとぼしくなったため、明治39年、資本金25万円の株式会社として、日本初の探鉱会社を設立した。本店は東京日本橋に置かれ、社長には野沢泰次郎が就任した。資金は、主に下野銀行が融資し、明治41年には、六万円余の純益をあげた。

西沢金山は、鉱区面積二百六十二万七千坪余で、最盛期には、一三〇〇人ほどの人が住み、病院・学校(大正4年・生徒一一五名)販売所などがあった。鉱石運搬には駄馬を用い、日光・今市を経由して藤原町の大原製煉所まで運んだが、大正6年には、太郎山・男体山の山腹に鉄索をかけて、安良沢まで運ん



現在の日光電気精銅所